

- 高速から車での進路
- 地下鉄 入谷駅 三の輪駅より 徒歩約10分 (日比谷線)
 - 都バス電泉バス停 徒歩約2分 (日暮里駅→錦糸町駅)

法華宗 鷲在山 長國寺 / 浅草田甫・酉の寺
 〒111 東京都台東区千束3-19-6 TEL.03-3872-1667

鷲ざいさん ちょうこくじ あさくさたんぼ とり てら
鷲在山 長國寺 — 浅草田圃「酉の寺」

当山は江戸時代、寛永七年（一六三〇）に石田三成の遺子、大本山長國山鷲山寺第十三世・日乾上人により浅草寺町に開山されました。宗祖を日蓮大聖人とし法華経を依教とする法華宗（本門流）の寺です。山号を鷲在山、寺号を長國寺と称し、「南無妙法蓮華経」を本尊とします。開山当時より十一月酉の日に大本山鷲山寺の鎮守である鷲妙見大菩薩（鷲大明神）の出開帳が行われ、多くの参詣者の厚い信仰を集めて門前に市が立つようになり、それが浅草「酉の市」の発端となりました。また鷲妙見大菩薩は江戸庶民より「おとりさま」と呼び親しまれ、長國寺も浅草田圃「酉の寺」と称されるようになります。

長國寺は寛文九年（一六六九）に現在の地、浅草千束に移転。鷲妙見大菩薩は明和三年（一七六六）に大本山第五十世、長國寺第十三世・日玄上人により当山へ移し勧請されます。当時は本堂のほか諸堂を配した大伽藍があり、鷲妙見大菩薩が安置された番神堂は妙見堂、鷲大明神の社、鷲の宮と呼ばれました。

明治初年の神仏分離令により当寺は、境内を含め寺と鷲神社とに分割されましたが、鷲妙見大菩薩は現在も長國寺に安置され、十一月酉の日にご開帳の法要が行われています。その後、関東大震災、東京大空襲などで焼失再建を繰り返しながらも、檀信徒家の外護により平成二年に山門、平成四年に本堂を落慶し現在の寺容となりました。

開山より、酉の寺長國寺は歴史の変遷の中、法華経を依教として法燈絶えることなく今日に至っています。



鷲妙見大菩薩（開運招福の守り本尊）

鎌倉時代、文永三年（一二六六）宗祖、日蓮大聖人が上総國鷲巢（千葉県茂原市）の小早川家（現在の大本山鷲山寺）に滞留の折、国家平穩の祈願をこめたところ、十一月酉の日、明星がにわかにかき出し示現したと伝わる尊仏が鷲妙見大菩薩です。七曜の冠を戴き宝剣をかざして鷲の背に立つ姿から、「鷲大明神」「おとりさま」と呼ばれてきました。

長國寺の鷲妙見大菩薩は、北斗七星がその第七星、破軍星を戴いて顕現した妙見菩薩です。古来より北斗七星と北辰星（北極星）は妙見菩薩となつて衆生を吉方に導き、破軍星は武運長久を守護するとされました。また月星と七曜を長國寺の寺紋とするのは、その紋章が妙見菩薩の表象であるためです。この鷲妙見大菩薩は出現が十一月酉の日、よつてその日をご開帳日と定め、以来開運招福の守り本尊として広く尊崇されています。



西の寺・長國寺と、西の市の賑わいは
江戸時代より、さまざまな文芸に描かれています。

江戸の頃より、賑わいを増した浅草の西の市では、頭の芋、黄金餅、青竹の茶せんや今戸焼土人形、絵に描いた大判小判、おかめの面などを飾った「縁起熊手」が財をかき込む、福をかき込むと縁起を担ぎ、商売繁昌を願う人々にもはやされ、一方、長國寺では「かつこめ熊手」という、小さな竹の熊手に、たわわに実る稲穂をつけた開運招福のお守りを出していました。
町人文化が華ひらいた江戸時代、この西の市の盛況ぶりは文芸の格好の主題とされます。
其角の句では「春を待つ 事のはじめや 西の市」と詠まれたり、
また廣重の筆にもたびたび描かれ、「絵本江戸土産（安政六年発行）」には「浅草西の町」と題して隅田川の対岸から、西の寺の賑わいを遠景に眺め、手前に青竹の熊手を大胆に配した絵があります。



春を待つ
事のはじめや
西の市

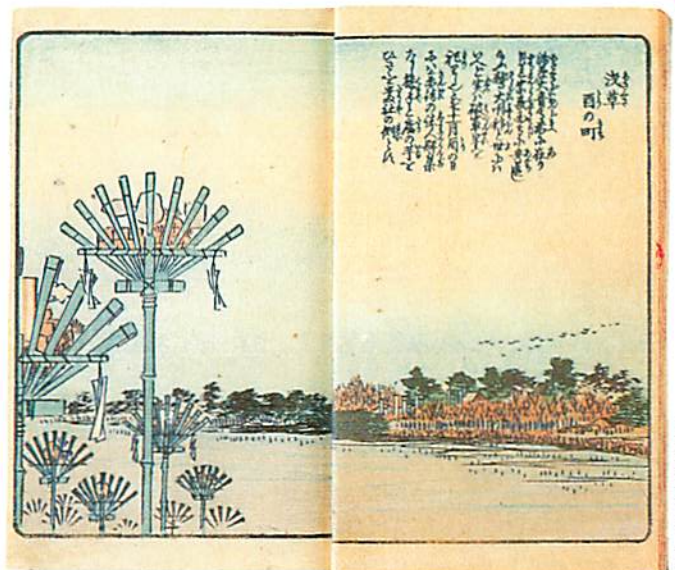
絵本江戸土産より



浮世繪筆より



東都歳時記より



浅草
西の町

ここには「浅草大音寺前に在り日蓮宗長國寺に安置したまふ鷲大明神と世にはいへど実は破軍星を祀りしなりとぞ、十一月西の日には参詣の諸人群衆なし、熊手と唐の芋をひさぐを当社の例とす。」との文章が書かれており、当時の長國寺の賑わいと鷲妙見大菩薩への人々の信仰が伺えます。開運招福の守り本尊、鷲妙見大菩薩は商売繁昌・武運長久の守護、女子の守り本尊、芸能・博打の守護など、時代とともに移り変わる民衆の篤い願いを包括した尊仏として伝えられてきました。
このように江戸の庶民の文化の中につかり溶け込んだ西の寺・長國寺と西の市は、江戸時代からの伝統と文化をそのまま今に受け継いでいます。



かつこめ熊手

明治時代の神仏分離令の後も、
伝統を守って現在まで。

明治時代の神仏分離令により、当山は西の寺長國寺と鷺神社に分かれ、各々が西の市を開くようになり、現在も十一月酉の日に鷺妙見大菩薩のご利益を求めて数多くの人が訪れています。当寺では江戸の頃より変わらぬ開運招福のお守り「かっこめ熊手」を授けておりそれを縁起熊手につけて、より一層の福を願う諸人の姿があります。

一年の無事に感謝し、来る年の幸いを願う西の市。お寺での開催は、東京ではここ浅草西の寺長國寺、唯ひとつです。そして、当山山主として日蓮大聖人の大願そのままに法華経の功德をひとりでも多くの人に伝えたいと念じています。

合掌



鷺妙見大菩薩が安置される厨子の扉

鷺妙見大菩薩のご開帳は、十一月酉の日に。

この鷺妙見大菩薩は、鷺大明神とも呼ばれ、開山の頃より「おとりさま」として厚い信仰を集めてきました。当時よりご開帳の日、十一月酉の日に門前市が立ち、それが現在の浅草「西の市」の発端となっています。

当日は、午前0時に大太鼓の合図で読経が

始まり、鷺妙見大菩薩の安置される厨子の扉が開かれます。本堂内がすべて清められると本堂正面に祈禱師が立ち、参詣に訪れた人々に向けて開運招福を祈念します。そして一堂に会した参詣者の威勢のいい手締によって、いよいよ市が始まります。



本堂内陣